

令和5年度 第3回学校運営協議会（記録）

令和5年度の第3回学校運営協議会を令和6年2月14日（水）10時00分より、11名の委員の出席のもと開催しました。出席した学校運営協議会委員は、次の方々です。

- ・北條 俊介 様（本校PTA会長）
- ・佐藤 敏文 様（真駒内東町町内会 会長）
- ・山名 常二 様（澄川第九町内会 会長、精進川美化・緑化の会 会長）
- ・菊地ひとみ 様（社会福祉法人札幌肢体不自由福祉会 施設長）
- ・戸倉 聡 様（日之出歯科真駒内診療所 診療部長）
- ・高橋 和明 様（札幌大学 教授）
- ・高木 美穂（本校 校長）
- ・近藤 正臣（本校 副校長）
- ・越田 淳（本校 教頭）
- ・黒沼 敬貴（本校 事務長）
- ・松橋 圭子（本校 教諭）



また、オブザーバーとして、川崎 真也 様（北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課社会教育指導係主査）が参加されました。

1 学校評価について

最初に、令和5年度学校評価について、副校長から説明がありました。委員の皆さんからは、次の質問があり、それに対して学校から回答がありました。

■「教職員の経営方針の『人権を尊重し尊厳を守る学校経営が推進されているか？』について、昨年度と今年度のa評価（大変良い）とb評価（良い）の割合の変化について、どのようにとらえているか？」
→「学部による割合の変化が大きいと考えられる。呼称に関わる意識についての職員間のばらつきや、排せつや体重などデリケートな事項についての児童生徒への気配りなどに、まだ学校として課題が見られるととらえている。」

■「教職員の自由記述に、『4月当初の段階での必要な支援について不安があった、できれば担当していた職員からの引継ぎがあればうれしい』とあるが、引継ぎはどのように行っているか？」
→「引継ぎは行っているが、担任だった職員が異動の場合は、児童生徒に関わった他の職員が行うことがある。チームとしての対応の充実が必要と考える。」

■「回答方法は、記名か無記名か？自由記述について聞き取りは行っているか？」
→「職員は記名、保護者記名・無記名のどちらでもできるようにしている。膨大な量があるので全ての自由記述に対して聞き取ることはできないが、重要と思われるものについては聞き取りを行っている。」

■「総評の考察で『児童生徒のけがや事故後の対応について～課題改善に向けた具体的な取組を適宜情報提供していく必要がある』と記述しているが、具体的にどのように提供していくのか？」

→「けがや事故の場合は、個人情報保護の関係で、給食の異物混入時の文書配付や、感染症罹患者の一斉メールと同様の対応は取りにくい。事故発生後に、どのような手続きで事故原因を突き止め、再発防止に努めているかを保護者説明会等で伝えていくことを検討したい。」

高橋委員からは、（１）学校の情報発信にあたっては、結果だけが伝わりがちだが、なぜそれをするのか、どういう経過で行ってきたからこうしたいと考えるのかという、プロセスを伝えることを大事にしてほしい。この情報発信を、個々の教職員の問題とせず、チームとして保護者の皆さんとつながっていくことが大事である、（２）淡々と効率的に業務をこなすだけの日々では、職員は働く喜びを感じにくい。やりがいは、自分自身ではなかなか感じられなく、周囲からの声や感想で気付いていく。児童生徒に向き合っている努力や頑張りを見て返していくのが、管理職の大事な役割である、とのご意見をいただきました。

２ 後期の教育活動、地域と共に進める取組・協働活動について

次に、第２回学校運営協議会以降の後期の教育活動について、副校長から写真を交えながら、高等部祭、高３の校外学習、学びのグランドデザイン（泊学習・校外学習編）、おやじの会の雪と遊ぼうについての説明がありました。特に、雪と遊ぼうでは、東海大学附属札幌高等学校野球部の部員 72 名が来校し、築山のそりすべりコースやかまくらなどを作ってもらったり、参加した児童生徒と優しく、楽しく交流していたりした様子が紹介されました。

その後、次年度の「地域と共に進める取組・協働活動」について、方向性が話し合われ、次のようなアイデアや情報提供が発表されました。

- フラワースマイル作戦は、次年度も苗購入の予算が確保できるため、今年度同様の活動を継続していきたい。
- ２つの町内会と合同で、学校の防災設備や備品の見学会&避難所運営ゲームを利用した合同研修会のアイデア
- 次年度のＯ・むすびフェスタの方向性についての現時点の情報提供
- バイスキーやアーティストとコラボした合同イベントのアイデア

３ 令和６年度学校経営方針（案）について

最後に、学校長より、令和６年度学校経営方針（案）について、次のような説明がありました。

- 働く喜びがわくには、お互いの信頼関係の構築や、何でも話せる、本音で語れるという心理的安全性がベースとなる。経営の重点の一つに、「心理的安全性の高い職場環境づくり」を加えた。
- ICT は活用されてきたが、使い方を研修等で深めていきたいため、指導の重点の「ICT を活用とした指導の活用」を、「充実」に変更した。
- みんなと一緒に考えて、みんなと一緒に取り組んでいきたいという願いを込めて、重点目標のサブタイトルを、「共有・協働・改善」から「共有・協働・共創」に変更した。

（教頭 越 田 淳）